

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-192496

(43)Date of publication of application : 12.07.1994

(51)Int.Cl.

C08L 23/10
C08K 5/20

(21)Application number : 05-269840

(71)Applicant : NEW JAPAN CHEM CO LTD

(22)Date of filing : 30.09.1993

(72)Inventor : MIZOGUCHI KAZUAKI
YOSHIMURA MASAFUMI
IKEDA NAOKI
SADAMITSU KIYOSHI
KAWAHARA YASUYUKI
YANA YOSHITAKA
KITAGAWA HIROSHI

(30)Priority

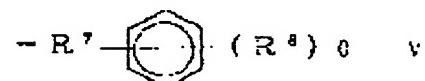
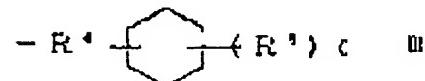
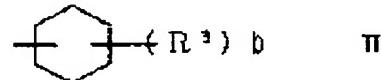
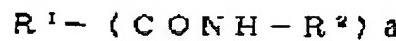
Priority number : 04308233 Priority date : 22.10.1992 Priority country : JP

(54) POLYPROPYLENE RESIN COMPOSITION

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the crystallizability and rigidity of a PP resin by adding a specified amide compound thereto.

CONSTITUTION: 100 pts.wt. PP resin is mixed with 0.001–5 pts.wt. amide compound of formula I (wherein R₁ is an aliphatic, alicyclic or aromatic polycarboxylic acid residue; R₂ is alkyl, alkenyl, cycloalkyl, cycloalkenyl, phenyl, naphthyl or a group of any one of formulas II to V; R₃, R₅, R₆ and R₈ are each alkyl, alkenyl, alkoxy, cycloalkyl, phenyl or halogen; R₄ and R₇ are each linear or branched alkylene; a is 3 to 6; b and d are each 1 to 5; c and e are each 0 to 5; and a R₂s, b R₃s, c R₆s and e R₈s are each an independent group).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.09.2000

[Date of sending the examiner's decision of
rejection]

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3401868

[Date of registration] 28.02.2003

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-192496

(43)公開日 平成6年(1994)7月12日

(51)Int.CL⁵
 C 08 L 23/10
 C 08 K 5/20

識別記号 K E W
 序内整理番号 7J07-4J

F I

技術表示箇所

審査請求 実請求 請求項の数1(全10頁)

(21)出願番号 特願平5-289840
 (22)出願日 平成5年(1993)9月30日
 (31)優先権主張番号 特願平4-308233
 (32)優先日 平4(1992)10月22日
 (33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000191250
 新日本理化株式会社
 京都府京都市伏見区藤島矢倉町13番地
 (72)発明者 游口 和昭
 京都府京都市伏見区藤島矢倉町13番地 新
 日本理化株式会社内
 (72)発明者 言村 駿史
 京都府京都市伏見区藤島矢倉町13番地 新
 日本理化株式会社内
 (72)発明者 池田 直紀
 京都府京都市伏見区藤島矢倉町13番地 新
 日本理化株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ポリプロピレン系樹脂組成物

(57)【要約】

【目的】 結晶性及び剛性に優れたポリプロピレン系樹脂組成物を提供する。

【構成】 ポリプロピレン系樹脂に対し、樹脂改質剤としてポリ($n = 3 \sim 6$)カルボン酸又はその無水物とモノアミンから得られるアミド系化合物を配合する。

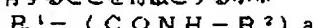
(2)

特開平6-192496

1

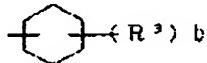
【特許請求の範囲】

【請求項1】 一般式(1)で示される1種若しくは2種以上のアミド系化合物を含有することを特徴とするポリプロピレン系樹脂組成物。

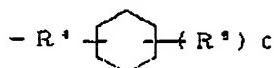


[式中、R¹は脂肪族ポリカルボン酸残基、脂環族ポリカルボン酸残基又は芳香族ポリカルボン酸残基を表す。R²はアルキル基、アルケニル基、シクロアルキル基、シクロアルケニル基、フェニル基、ナフチル基。]

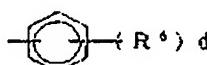
【化2】



【化3】

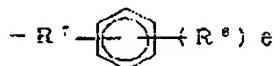


【化4】



又は

【化5】



で示される基を表す。R³、R⁴、R⁵、R⁶は夫々、アルキル基、アルケニル基、アルコキシル基、シクロアルキル基、フェニル基又はハロゲン原子を表す。R⁷、R⁸は夫々、直鎖状又は分岐鎖状のアルキレン基を表す。aは3~6の整数を示す。b、dは夫々1~5の整数を示す。c、eは夫々0~5の整数を示す。尚、a個のR¹、b個のR²、c個のR³、d個のR⁴、e個のR⁵は夫々独立した基である。]

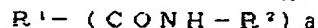
【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、結晶性及び剛性に優れたポリプロピレン系樹脂組成物に関する。

【0002】

※40



(1)

* リプロビレン系樹脂組成物。

【化1】

* 【従来の技術】ポリプロピレン系重合体は、成形性、機械特性、耐気特性等が優れているために、フィルム成形、シート成形、ブロー成形、射出成形等の素材として、様々な分野に応用されている。

【0003】しかし、当該樹脂は、一般的には優れた物理性を有しているものの、結晶性及び剛性が低いという問題点があり、ある種の用途によっては、その樹脂本来の優れた性能が充分に引き出せないために、その適用が制限されたものとなっているのが現状であった。

【0004】今までにポリプロピレン系重合体の結晶性及び剛性を改良する目的で種々の試みが行われてきた。例えば、カルボン酸の金属塩、芳香族カルボン酸の金属塩、芳香族リン酸の金属塩、脂肪族ジカルボン酸のアミン塩や金属塩、ソルビトール誘導体等の樹脂改質剤を添加する方法が知られている。

【0005】しかし、これらの化合物は、改質効果が不十分であったり、樹脂改質剤そのものの耐熱性が低く、更には樹脂の劣化を促進する等の問題点を有しており、尚、改善の余地が認められる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記の樹脂改質剤の問題点を解消し、結晶性や剛性のより向上した新規有用なポリプロピレン系樹脂組成物を提案することを目的とする。

【0007】

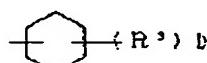
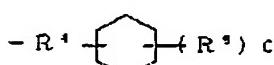
【課題を解決するための手段】本発明者らは、かかる現状に鑑み、上記課題を解決すべく鋭意検討を行った結果、ポリプロピレン系樹脂に対し、特定の構造を有するアミド系化合物を配合することにより所期の効果が得られることを見いだし、かかる知見に基づいて本発明を完成するに至った。

【0008】即ち、本発明に係るポリプロピレン系樹脂組成物は、一般式(1)で示される1種若しくは2種以上のアミド系化合物を含有することを特徴とする。

【化6】

(1)

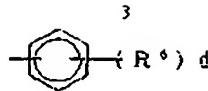
【化8】



【化9】

(3)

特開平6-192496



又は

【化10】



で示される基を表す。R^c、R^d、R^e、R^fは元々、アルキル基、アルケニル基、アルコキシル基、シクロアルキル基、フェニル基又はハログン原子を表す。R^c、R^dは元々、直鎖状又は分岐鎖状のアルキレン基を表す。aは3~6の整数を示す。b、dは元々1~5の整数を示す。c、eは元々0~5の整数を示す。尚、a個のR^c、b個のR^d、c個のR^e、d個のR^f、e個のR^fは元々独立した基である。】

【0009】一般式(1)で示されるアミド系化合物は、所定のポリカルボン酸又はその酸無水物と1種若しくは2種以上のモノアミンとを従来公知の方法に従ってアミド化することにより容易に調製することができる。

【0010】本発明に係るポリカルボン酸としては、脂肪族ポリカルボン酸（好ましくは、炭素数3~30の飽和又は不飽和の脂肪族ポリカルボン酸）、脂環族ポリカルボン酸及び芳香族ポリカルボン酸が挙げられる。かかるポリカルボン酸は、置換基として1個若しくは2個以上の水酸基、アルキル基、アルケニル基及び/又はアセトキシ基を有していても良い。

【0011】脂肪族ポリカルボン酸としては、クエン酸、メントリカルボン酸、エタントリカルボン酸、ブロバントリカルボン酸、ブロペントリカルボン酸、カンホロン酸、ブタントリカルボン酸、ベンタントリカルボン酸、ヘキサントリカルボン酸、ヘプタントリカルボン酸、オクタントリカルボン酸、ノナントリカルボン酸、デカントリカルボン酸、アセトキシプロパントリカルボン酸、アセトキシベンタントリカルボン酸、アセトキシヘプタントリカルボン酸、エタンテトラカルボン酸、ブロバンテトラカルボン酸、ブantanテトラカルボン酸、ベンタンテトラカルボン酸、ドデカンテトラカルボン酸、ベンタベンタカルボン酸、アセトキシベンタベンタカルボン酸、ベンタベンヘキサカルボン酸、テトラデカンヘキサカルボン酸、エチレンジアミン四酢酸、ニトリロ三酢酸、エチレングリコールビス(β-アミノエチルエーテル)N, N, N', N'-四酢酸、ジエチレントリアミン五酢酸、N-ヒドロキシエチルエチレンジアミン-N, N, N', N'-三酢酸、1, 3-ジアミノブロバン-2-オール-N, N, N', N'-四酢酸、1, 2-ジアミノブロバン-N, N, N', N'-四酢酸、トリエチレンテトラミン六酢酸、ニトリロ三ブロビオン酸、1, 6-ヘキサメチレンジアミン四酢酸、N-(2-カルボキシエチル)イミノ二酢酸等が例示される。

- 4
- 【0012】脂環族ポリカルボン酸としては、シクロヘキサントリカルボン酸、カンホ酸、トランスーカンホトリカルボン酸、シクロブタンテトラカルボン酸、シクロヘキサンテトラカルボン酸、シクロヘキサンテトラカルボン酸、テトラヒドロフランテトラカルボン酸、3, 4-ジカルボキシ-1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-1-ナフタレンコハク酸（以下「TDA」と略記する。）及びその低級アルキル置換体（例えば、1位、5位、6位又は7位のメタル置換体、特に1-メチル置換体が推奨される。）、5-(コハク酸)-3-メチル-3-シクロヘキセン-1, 2-ジカルボン酸（以下「SMSD」と略記する。）、ビシクロ[2.2.2]オクタ-7-エン-2, 3, 5, 6-テトラカルボン酸、シクロヘキサンヘキサカルボン酸、5, 6, 9, 10-テトラカルボキシトリシクロ-(6, 2, 2, 0^{1, 3})-ドデカ-2, 11-ジエン（以下「PNDA」と略記する。）及びその低級アルキル置換体（例えば、3位、8位、11位又は12位のメチル置換体、特に3-メチル置換体が推奨される。）、1, 2-シクロヘキサンジアミン四酢酸、2, 3, 5-トリカルボキシシクロベンチル酢酸、6-メチル-4-シクロヘキセン-1, 2, 3-トリカルボン酸、3, 5, 6-トリカルボキシノルボネン-2-酢酸、チオビス(ノルボネン-2, 3-ジカルボン酸)、ビシクロ[4.2.0]オクタン-3, 4, 7, 8-テトラカルボン酸、1, 1'-ビシクロプロパン-2, 2', 3, 3'-テトラカルボン酸、1, 2-ビス(2, 3-ジメチル-2, 3-ジカルボキシシクロブチル)エタン、ビラシン-2, 3, 5, 6-テトラカルボン酸、トリシクロ[4.2.2.0^{1, 3}]デカン-9-エン-3, 4, 7, 8-テトラカルボン酸、2, 3, 4, 5, 6, 7, 12, 13-オクタヒドロフェナントレン-3, 4, 5, 6-テトラカルボン酸、1, 3, 5-トリメチル-1, 3, 5-シクロヘキサントリカルボン酸等が例示される。
- 【0013】芳香族ポリカルボン酸としては、ベンゼントリカルボン酸、ベンゼンテトラカルボン酸、ベンゾフエノンテトラカルボン酸、ビフェニルテトラカルボン酸、ビフェニルエーテルテトラカルボン酸、ジフェニルスルフォンテトラカルボン酸、ジフェニルメタンテトラカルボン酸、ベリレンテトラカルボン酸、ナフタレンテトラカルボン酸、エチレングリコール-トリメリット酸ジエステル（以下「TMG」と略記する。）、ベンゼンヘキサカルボン酸、グリセリン-トリメリット酸トリエステル（以下「TMTA」と略記する。）、4, 4'-ジナフタル酸、ベンジジン-3, 3'-ジカルボキシ-N, N'-四酢酸、ジフェニルブロバンテトラカルボン酸、アントラセンテトラカルボン酸、フタロシアニンテトラカルボン酸等が例示される。
- 【0014】本発明に係るモノアミンとしては、以下に例示される脂肪族モノアミン、脂環族モノアミン及び芳

(4)

特開平6-192496

5

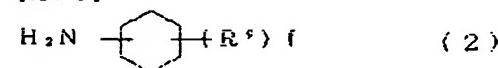
香族モノアミンが挙げられる。

【0015】脂肪族モノアミンとしては、直鎖状又は分岐鎖状の炭素数1～18のアルキル基又は炭素数2～18のアルケニル基を有するモノアミンが挙げられ。具体的には、メチルアミン、エチルアミン、プロピルアミン、イソプロピルアミン、n-ブチルアミン、イソブチルアミン、第2ブチルアミン、第3ブチルアミン、n-アミルアミン、第3アミルアミン、ヘキシルアミン、ヘプチルアミン、n-オクチルアミン、2-エチルヘキシルアミン、第3オクチルアミン、ノニルアミン、デシルアミン、ウンデシルアミン、ドデシルアミン、トリデシルアミン、テトラデシルアミン、ペンタデシルアミン、ヘキサデシルアミン、ペプタデシルアミン、オクタデシルアミン、オクタデセニルアミン、アリルアミン等が例示される。

【0016】脂環族モノアミンとしては、シクロプロピルアミン、シクロブチルアミン、シクロヘキシルアミン、シクロヘキシルアミン、シクロヘプチルアミン、シクロオクチルアミン、シクロドデシルアミン等の他、一般式(2)又は一般式(3)で表される化合物が挙げられる。尚、これらの化合物には種々の異性体があるが、所定の効果を有する限り何れの異性体も適用できる。

【0017】

【化11】



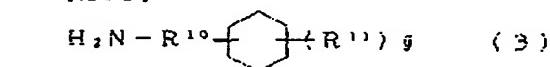
【式中、R[°]は炭素数1～18のアルキル基、炭素数2～18のアルケニル基、炭素数1～6のアルコキシリ基、炭素数4～8のシクロアルキル基、フェニル基又はハロゲン原子を表す。fは1～5の整数を示す。】

【0018】一般式(2)で表される脂環族モノアミンとしては、メチルシクロヘキシルアミン、エチルシクロヘキシルアミン、プロピルシクロヘキシルアミン、イソプロピルシクロヘキシルアミン、n-ブチルシクロヘキシルアミン、第2ブチルシクロヘキシルアミン、第3ブチルシクロヘキシルアミン、n-アミルシクロヘキシルアミン、第3アミルシクロヘキシルアミン、ヘキシルシクロヘキシルアミン、ヘプチルシクロヘキシルアミン、n-オクチルシクロヘキシルアミン、2-エチルヘキシルシクロヘキシルアミン、第3オクチルシクロヘキシルアミン、ノニルシクロヘキシルアミン、デシルシクロヘキシルアミン、オクタデセニルシクロヘキシルアミン、ジメチルシクロヘキシルアミン、ジエチルシクロヘキシルアミン、ジイソブロピルシクロヘキシルアミン、ジn-ブチルシクロヘキシルアミン、ジ第2ブチルシクロヘキシルアミン、ジ第3ブチルシクロヘキシルアミン、ジn-アミルシクロヘキシルアミン、ジヘキシルシクロヘキシルアミン、トリメチルシクロヘキ

シルアミン、トリエチルシクロヘキシルアミン、トリブロピルシクロヘキシルアミン、トリイソブロピルシクロヘキシルアミン、トリn-ブチルシクロヘキシルアミン、トリ第2ブチルシクロヘキシルアミン、トリ第3ブチルシクロヘキシルアミン、メトキシシクロヘキシルアミン、ジエトキシシクロヘキシルアミン、ジn-ブトキシシクロヘキシルアミン、ジ第2ブトキシシクロヘキシルアミン、ジ第3ブトキシシクロヘキシルアミン、クロロシクロヘキシルアミン、ジクロロシクロヘキシルアミン、プロモシクロヘキシルアミン、ジプロモシクロヘキシルアミン等が例示される。

【0019】

【化12】



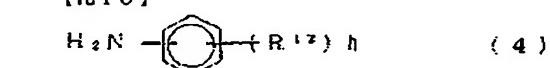
【式中、R¹⁰は炭素数1～4の直鎖状又は分岐鎖状のアルキレン基を表す。R¹¹は一般式(2)のR[°]と同義である。gは0～5の整数を示す。】

【0020】一般式(3)で表される脂環族モノアミンとしては、シクロヘキサンメチルアミン、ジメチルシクロヘキサンメチルアミン、トリメチルシクロヘキサンメチルアミン、α-シクロヘキシルエチルアミン、β-シクロヘキシルエチルアミン、α-シクロヘキシルプロピルアミン、β-シクロヘキシルプロピルアミン、ジメトキシシクロヘキシルエチルアミン、ジクロロシクロヘキサンメチルアミン等が例示される。

【0021】芳香族モノアミンとしては、アニリン、ナフチルアミンの他、一般式(4)又は一般式(5)で表される化合物が挙げられる。

【0022】

【化13】



【式中、R¹²は一般式(2)のR[°]と同義である。hは1～5の整数を示す。】

【0023】一般式(4)で表される芳香族モノアミンとしては、メチルアニリン、エチルアニリン、プロピルアニリン、イソプロピルアニリン、n-ブチルアニリン、第2ブチルアニリン、第3ブチルアニリン、n-アミルアニリン、第3アミルアニリン、ヘキシルアニリン、ヘブチルアニリン、n-オクチルアニリン、2-エチルヘキシルアニリン、第3オクチルアニリン、ジメチルアニリン、ジエチルアニリン、ジプロピルアニリン、ジイソブロピルアニリン、ジn-ブチルアニリン、ジ第2ブチルアニリン、ジ第3ブチルアニリン、トリメチルアニリン、トリエチルアニリン、トリプロピルアニリン、アミノステレン、アニシジン、ジメトキシアニリ

(5)

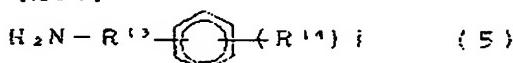
特開平6-192496

7

ン、ジエトキシアニリン、シクロヘキシルアニリン、アミノジフェニル、クロロアニリン、ジクロロアニリン、プロモアニリン、ジプロモアニリン等が例示される。

【0024】

【化14】



【式中、 R^{11} は一般式(3)の R^{10} と同義である。 R^{10} は一般式(2)の R^9 と同義である。 i は0~5の整数を示す。】

【0025】一般式(5)で表される芳香族モノアミンとしては、ベンジルアミン、ジメチルベンジルアミン、トリメチルベンジルアミン、 α -フェニルエチルアミン、 β -フェニルエチルアミン、 α -フェニルプロピルアミン、 β -フェニルプロピルアミン、 γ -フェニルプロピルアミン、ジメトキシフェニルエチルアミン、ジクロロベンジルアミン等が例示される。

【0026】本発明に係るアミド系化合物の中でも、特に、1、2、3、4-ブタンテトラカルボン酸(以下「BTC」と略記する)、TDA、SMSD、トリメシン酸、トリカルパリル酸及び1、3、5-ベンタントリカルボン酸からなる群より選ばれるポリカルボン酸又はその酸無水物を酸成分とし、シクロヘキシルアミン、2-メチルシクロヘキシルアミン、3-メチルシクロヘキシルアミン、4-メチルシクロヘキシルアミン及びジメチルシクロヘキシルアミンからなる群より選ばれる脂環族アミンをアミン成分として調製されるアミド系化合物が推奨される。

【0027】本発明で用いられるポリプロビレン系樹脂とは、プロピレンを構成成分としてなる重合体であって、プロピレン単独重合体、プロピレンと他の α -オレフィン類(例えばエチレン、ブテン-1、ベンテン-1、4-メチルベンテン-1、ヘキセン-1等)又酢酸ビニル等とのランダム又はブロック共重合体或いは前記ポリプロビレン樹脂系と少量の熱可塑性樹脂(例えば、高密度ポリエチレン、ポリブテン、ポリ-4-メチルベンテン等)とのブレンドポリマーが例示される。特にプロピレン単独重合体、プロピレン-エチレンブロック共重合体系の樹脂に対して本発明に係るアミド系化合物の添加効果は大きい。

【0028】かかるポリプロビレン系樹脂を製造するために適用される触媒としては、一般に使用されているチーグラー・ナッタ型触媒はもちろん、遷移金属化合物(例えば、三塩化チタン、四塩化チタン等のチタンのハロゲン化物)を塩化マグネシウム等のハロゲン化マグネシウムを主成分とする担体に保持してなる触媒と、アルキルアルミニウム化合物(トリエチルアルミニウム、ジエチルアルミニウムクロリド等)とを組み合わせてなる触媒系も使用できる。

8

【0029】ポリプロビレン系樹脂成分のメルトフロー(以下「MFR」と略記する。JIS K 6758-1981)は、その適用する成形方法により適宜選択され、通常、0.1~200g/10分程度、好ましくは0.5~100g/10分程度である。

【0030】本発明に係るアミド系化合物の配合量は、所定の効果が得られる限り特に限定されず適宜選択することができるが、通常、ポリプロビレン系樹脂100重量部に対し0.001~2重量部程度、より好ましくは0.001~2重量部程度である。0.001重量部未満の場合には、所定の改質効果が得られにくく、5重量部を越えて配合した場合には配合量に見合うだけの改質効果が期待できず、実際的でないばかりか、不経済であって、いずれの場合も好ましくない。

【0031】本発明に係る樹脂組成物には、必要に応じて安定剤(エポキシ化合物等)、酸化防止剤(フェノール系化合物、亜リン酸エステル系化合物等)、抗菌剤、紫外線吸収剤(ベンゾフェノン系化合物、ベンゾトリアゾール系化合物等)、熱安定剤、光安定剤(ヒンダードアミン系化合物等)、中和剤、着色防止剤、アンチプロッキング剤、遮燃剤、重金属不活性剤、滑剤(脂肪酸金属層塗)、分散剤、過酸化物(有機過酸化物)、有機・無機の顔料、充填剤(タルク、ハイドロタルサイト、マイカ、ゼオライト、バーライト、珪藻土、炭酸カルシウム、ガラス纖維等)、発泡剤、エラストマー、加工助剤、造粒剤等を本発明の効果を損なわない範囲で添加することができる。

【0032】かくして得られるポリプロビレン樹脂組成物は、成形性に優れ、強韌で、透明性に優れる。

【0033】本発明のポリプロビレン系樹脂組成物は、所定の成分を従来公知の混合装置(ヘンシェルミキサー、リボンブレンダー等)を用いて混合した後、一軸或いは二軸の押出機等で溶融混練して製造され、得られた樹脂組成物は、フィルム、シート、小型容器、注射器、日用雑貨品、自動車部品、コンテナー、家庭用品、不織布等の樹脂材料として好適であり、その目的とする製品に応じて射出成形、押出成形、ブロー成形等の各種方法によって成形される。

【0034】

【実施例】以下、実施例及び比較例を掲げ、本発明を詳しく説明する。尚、実施例における結晶化温度、曲げ強度率は下記の方法に従って測定した。

【0035】樹脂組成物の調製: 所定のポリプロビレン系樹脂100重量部に所定量のアミド系化合物を配合し、ヘンシェルミキサーで混合後、20mmの一軸押出機でペレット化する。

【0036】結晶化温度の測定: 上記で得られたペレットをプレス成形機で厚さ0.5mmのシートに成形し、そのシートの結晶化温度をJIS K 7121に準じて測定する。

(6)

特開平6-192496

9

【0037】曲げ弹性率の測定：上記で得られたペレットを射出成形機にかけ、厚さ4mmの試験片を得る。この試験片の曲げ弹性率をJIS K 7203に準拠して測定する。曲げ速度は10mm/分である。

【0038】実施例1～6

プロピレン-エチレンブロックコポリマー粉末(MFR = 2g/10分、以下「樹脂1」という。) 100重量*

10

* 部に所定のアミド系化合物を0、2重量部添加して調製した樹脂組成物の結晶化温度及び曲げ弹性率を測定した。得られた結果を第1表～第3表に示す。

【0039】比較例1

樹脂1 自体の結晶化温度及び曲げ弹性率を測定した。得られた結果を第3表に示す。

【表1】

	アミド系化合物	結晶化温度 (℃)	曲げ弹性率 (Kg/cm ²)
実施例1	ビフェニルテトラカルボン酸デトラシクロヘキシルアミド	125	11300
実施例2	BTCテラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	129	113200
実施例3	BTCテラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	122	10900
実施例4	BTCテラキス(1-ヘキシルアミド)	119	10900
実施例5	BTCテラキス(p-トルイジンアミド)	125	11800
実施例6	BTCテラアニリド	124	11200
実施例7	BTCテラシクロヘキサンメチルアミド	128	12200
実施例8	BTCテラシクロヘキシルアミド	130	12800
実施例9	BTCテラシクロヘンチルアミド	129	12500
実施例10	BTCテラシクロドデシルアミド	131	11200
実施例11	BTCテラシクロオクチルアミド	128	10700
実施例12	BTCテラベンジルアミド	125	11300
実施例13	ベンツフェノンテトラカルボン酸デトラシクロヘキシルアミド	116	10200
実施例14	ジフェニルスルfonyントラカルボン酸デトラシクロヘキシルアミド	117	10200
実施例15	SMSDテラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	128	12700
実施例16	SMSDテラキス(オ-トルイジンアミド)	127	12200
実施例17	SMSDテラキス(p-トルイジンアミド)	126	11800
実施例18	SMSDテトラアニリド	128	11900
実施例19	SMSDテラシクロヘキサンメチルアミド	129	11800
実施例20	SMSDテラシクロヘキシルアミド	129	13100
実施例21	SMSDテラシクロヘンチルアミド	129	12100
実施例22	SMSDテラシクロドデシルアミド	131	11200
実施例23	SMSDテラシクロオクチルアミド	128	10600
実施例24	SMSDテラベンジルアミド	126	11400
実施例25	ビフェニルエーテルトラカルボン酸デトラシクロヘキシルアミド	120	10200

【表2】

特開平6-192496

12

(2)

11

第2表

	アミド系化合物	結晶化温度 (℃)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例26	ビロメリット酸チトラシクロヘキシルアミド	127	11300
実施例27	ビロメリット酸チラベンジルアミド	125	10200
実施例28	PNDAテトラシクロヘキシルアミド	116	10200
実施例29	TDAテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	129	12500
実施例30	TDAテトラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	121	10500
実施例31	TDAテトラキス(0-トルイジンアミド)	127	11000
実施例32	TDAテトラキス(ロートルイジンアミド)	123	10200
実施例33	TDAテトラアニリド	126	11700
実施例34	TDAテトラシクロヘキシルアミド	130	12600
実施例35	TDAテトラシクロデシルアミド	131	11000
実施例36	TDAテトラシクロオクチルアミド	130	10600
実施例37	TDAテトラシクロヘンチルアミド	128	12000
実施例38	TDAテトラベンジルアミド	122	10600
実施例39	TMEGテトラシクロヘキシルアミド	117	10200
実施例40	TMTAテトラシクロヘキシルアミド	117	10300
実施例41	シクロヘンタンチラカルボン酸チラシクロヘキシルアミド	119	10200
実施例42	2,3,5-トリカルボキシシクロベンチル酸チラシクロヘキシルアミド	129	12400
実施例43	テラデカノヘキサカルボン酸チラシクロヘキシルアミド	124	10400
実施例44	トリカルバリル酸トリアニド	120	10700
実施例45	トリカルバリル酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	126	11100
実施例46	トリカルバリル酸トリス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	123	11400
実施例47	トリカルバリル酸トリス(2,3-ジメチルシクロヘキシルアミド)	124	11500
実施例48	トリカルバリル酸トリシクロヘキサメチルアミド	123	11300
実施例49	トリカルバリル酸トリカルボン酸トリアニド	125	11200
実施例50	1,3-二ベンゼントリカルボン酸トリアニド	127	11200

【表3】

40

特開平6-192496

(8)

	アミド系化合物	結晶化温度 (℃)	曲げ弾性率 (Kg./cm ²)
実施例5.1	1, 3, 5-ペンタントリカルボン酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	128	11300
実施例5.2	1, 3, 5-ペンタントリカルボン酸トリス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	128	11300
実施例5.3	1, 3, 5-ペンタントリカルボン酸トリス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	124	11200
実施例5.4	トリメシン酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	127	12000
実施例5.5	トリメシン酸トリス(3, 5-キシジンアミド)	121	10500
実施例5.6	トリメシン酸トリス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	123	10500
実施例5.7	トリメシン酸トリス(p-トルイジンアミド)	123	11400
実施例5.8	トリメシン酸トリス(tert-ブチルアミド)	127	12000
実施例5.9	トリメシン酸トリニアリド	124	10700
実施例6.0	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	125	11900
実施例6.1	トリメシン酸トリシクロデシルアミド	122	11100
実施例6.2	トリメシン酸トリシクロオクチルアミド	124	111200
実施例6.3	トリメシン酸トリシクロヘンチルアミド	124	11600
実施例6.4	トリメシン酸トリベニジルアミド	122	10200
実施例6.5	1, 3, 5-シクロヘキサントリカルボン酸トリアミド	127	11200
実施例6.6	1, 3, 5-シクロヘキサントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	125	10300
比較例1	-	114	10000

【0040】実施例6.7~7.4

40

プロピレンホモポリマー粉末(MFR = 1.4 g / 10 分)以下「樹脂2」という。)100重量部に第2表に示すアミド系化合物0.2重量部添加して調製した樹脂組成物の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第4表に示す。

【0041】比較例2

樹脂2自体の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第4表に示す。

【表4】

第4表

	アミド系化合物	結晶化温度 (°C)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例67	BTCテトラシクロヘキシルアミド	129	18600
実施例68	BTCテトララキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	130	19000
実施例69	SMSDテトラシクロヘキシルアミド	129	19100
実施例70	SMSDテトララキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	127	18600
実施例71	トリカルボリ酸トリシクロヘキシルアミド	122	17100
実施例72	トリカルボリ酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	123	17600
実施例73	1,3,5-ベンツントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	128	17100
実施例74	1,3,5-ベンツントリカルボン酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	128	17200
比較例 2	-	113	13100

【0042】実施例75～82

プロピレン-エチレンランダムコポリマー粉末(MFR = 1.4 g/10分、以下「樹脂3」という。)100重量部に第3表に示すアミド系化合物物り、2重合部を添加して調製した樹脂組成物の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第5表に示す。

【0043】比較例3

樹脂3自体の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得

(9)

15
16
られた結果を第5表に示す。
【表5】

	アミド系化合物	結晶化温度 (°C)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例75	BTCテトラシクロヘキシルアミド	113	6900
実施例76	BTCテトララキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	112	7100
実施例77	SMSDテトラシクロヘキシルアミド	112	7000
実施例78	SMSDテトララキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	112	6900
実施例79	トリカルボリ酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	102	6300
実施例80	トリカルボリ酸トリス(2-メチルボン酸トリシクロヘキシルアミド)	103	6900
実施例81	1,3,5-ベンツントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	114	6800
実施例82	1,3,5-ベンツントリカルボン酸トリス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	113	6800
比較例 3	-	94	5500

【0044】

【発明の効果】ポリプロピレン樹脂に対し、本発明に係るアミド系化合物を配合することにより、結晶化温度が高く、且つ曲げ弾性率が大幅に改善されたポリプロピレン系樹脂組成物を得ることができる。

(10)

特開平6-192496

フロントページの続き

(72)発明者 定光 清
京都府京都市伏見区霞島矢倉町13番地 新
日本理化株式会社内
(72)発明者 川原 康行
京都府京都市伏見区霞島矢倉町13番地 新
日本理化株式会社内

(72)発明者 梁 吉孝
京都府京都市伏見区霞島矢倉町13番地 新
日本理化株式会社内
(72)発明者 北川 宏
京都府京都市伏見区霞島矢倉町13番地 新
日本理化株式会社内

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.